

番 号	事業の名称	担当課	事業の目的・概要	事業の内容・規模	事業費(円) 上段:申請額 下段():実績額	交付金(円) 上段:申請額 下段():実績額	重要業績評価指標(KPI)		令和2年度実績と評価		総合戦略推進会議の検証		市議会の検証
							指標項目	目標値	達成値	市評価	評価	意見	意見
1	小さな楽園拡大連携プロジェクト 【共同申請】 【継続事業】	地域づくり課 水産課	人口減少が進行する中、以下の施策を展開し持続可能な地域コミュニティづくりを行う。 1. 小さな拠点づくりのための支援 2. 地域課題解決の担い手となる人材の確保 (1) 地域が特に必要とする人材の誘致・発掘 (2) 県・全市町共同運営の「ながさき移住サポートセンター」による、職、住、生活の切れ目のないワンストップ支援・誘致展開 (3) 集落の基幹産業である水産業の担い手確保	ながさき移住サポートセンター負担金: 608,550円 ながさき漁業伝習所支所運営費(就業希望者への情報発信等): 158,900円 漁業就業実践研修経費(実践研修の技術指導経費等支援): 36,080,000円 あととり育成事業: 1,200,000円 定着促進、離職防止経費(漁業技術向上や多角化のための支援): 250,000円 小計: 38,297,450円 うち対象外経費: 18,119,000円(水産関係事業、県負担分及び旅費等) 補助対象額: 20,178,450円	46,036,000 (38,298,000)	12,837,000 (10,089,000)	移住サポートセンター関連にて移住した人材数	10名	18名	B	B		
							地域運営組織の形成数	1組織	1組織				
							小さな拠点の設立数	1拠点	0拠点				
							地域運営組織における売上額(千円) 目標は県下21市町合算	8,000	142				
2	しまの産品生産・販売力拡大支援事業 【共同事業】 【新規事業】	水産課 しまの力創生課	平成29年度に各市町は、それぞれ「しまの地域商社」を立ち上げ、各しまで生産拡大や商品開発を進め、産品の供給体制や一定の供給ロットを確保するとともに、マーケティングの実施や販路拡大に取り組んできた。その結果、基準年である平成27年度の2.3億円から平成30年度には4.3億円と首都圏を中心として一定の販路拡大が進んだ。一方で、これまでの取組みの結果、明らかになった課題を踏まえ、新たに以下の取組みを行っていく。 ○しまの事業者への集中支援によるプロダクトアウトからマーケットインへの転換 ○しまの地域商社の機能強化及び持続可能な運営体制の確立 ○しまの産品生産・販売力拡大の一体的な推進	(1) しまの地域商社の生産・販売力強化事業(19,928,000円) 生産力向上事業: 2,000,000円 商品力強化事業: 3,642,000円 物流拠点構築事業: 2,000,000円 販路開拓、拡大事業: 7,358,000円 しまの事業者等支援に係る負担金: 4,928,000円 (2) しまの地域商社関連事業者の供給体制強化事業(16,640,000円) なりわいづくり拡充支援補助金(2社): 16,640,000円 補助対象額: 36,568,000円	51,000,000 (36,568,000)	25,500,000 (18,284,000)	しまの地域商社の販売増加額 目標は4離島合算	257,000千円	32,000千円	B	B		
							地域商社等の支援により開発した新商品数 目標は4離島合算	16品	27品				
							地域商社等の支援により販売額が前年比120%を超えた事業者数 目標は4離島合算	8事業者	0事業者				
3	対馬中地区神話の里を中心とした交流人口拡大プロジェクト 【市単独申請】 【継続事業】	中対馬振興部	本地域は和都美神社や風光明媚な原風景、日本有数の自然海岸延長を誇る浅茅湾を一望できる烏帽子岳等様々な歴史、観光資源を有しているが、現状、対馬北部と南部を結ぶ通過地に留まっていることから宿泊機能、体験メニュー等の拡充により、観光客の滞留時間を拡大し、地元消費を促すことで地域の活性化を図る。	青海の花畑スポット整備事業(そば種子代): 30,000円 神話の里自然公園再整備事業(コテージ増設工事)については、国定公園内であり許可手続きに時間を要したことから、令和3年度事業として実施予定。その他インストラクター育成等のソフト事業については、コロナ感染症予防対策により実施できなかった。	63,766,000 (30,000)	31,883,000 (15,000)	神話の里自然公園キャンプ場 利用人数	3,835人	216人	C	C		
							各種体験の利用人数	100人	15人				
							韓国人観光客数	414,982人	11,357人				
4	地域課題解決型移住・定住促進事業 【共同申請】 【継続事業】	地域づくり課 しまの力創生課	地域の産業空白地帯の解消や地域の強みを生かした地域産業の事業拡充に対する支援を行う。 長崎県及び県下市町との共同申請	事業承継準備支援: 1,060,000円【1件支援】 うち対象外経費: 530,000円(県支援) 補助対象額: 530,000円	2,700,000 (530,000)	1,350,000 (265,000)	移住サポートセンター等を通じた移住者数 共同申請市町合算	800人	18名	C	C		
							事業継承件数 共同申請市町合算	10件	0件				
							雇用増加数 共同申請市町合算	150人	1人				

番号	事業の名称	担当課	事業の目的・概要	事業の内容・規模	事業費(円) 上段:申請額 下段():実績額	交付金(円) 上段:申請額 下段():実績額	重要業績評価指標(KPI)		令和2年度実績と評価		総合戦略推進会議の検証		市議会の検証
							指標項目	目標値	達成値	市評価	評価	意見	意見
5	島づくり人材育成及び自動運転技術導入に係る大学連携プロジェクト 【市単独申請】 【新規事業】	しまの力創生課	Society5.0や人口急減社会といった急激な社会変化に順応しながら、地方創生SDGsに向けたイノベーションやリーダーシップ力を発揮できる「実践型人材」の育成を、第1次総合戦略で推進してきた域学連携での大学ネットワークやESD(持続可能な地域の担い手づくり)の知見等を活かして強力に推進する。 また、明治大学自動運転社会総合研究所及び、その他関係大学や企業等と連携し、自動運転バスの実装に向けた実証実験と事業期間内の実装を行い、将来的な島内陸上交通事業の継続及び市民生活の質の向上を図る。 更に、島内における人材不足の課題は顕在化してきているため、公共交通事業のみならず、将来的には自動運転技術の活用による林業作業車の導入や漂流漂着ゴミ回収の船舶の導入等、多分野での活用をめざし、産業の振興を図る。	【自動運転技術導入のための基盤整備】 公道における自動運転技術の実装化に向け、各関係機関との調整や市内の状況を調査したうえで市内での実証路線の選定を行い実証実験を行う。 ・大学・産業界等との検討・協議 ・実証実験路線の選定及び各種手続き 自動運転技術導入のための基盤整備負担金 6,500,000円 【島づくり人材の育成】 対馬グローバル大学開催事業:1,143,263円 島づくり人材育成塾事業委託料:4,415,986円 せんだんご速醸研究及び生産実証事業:370,700円 域学連携活動・あま滞り拠点施設運営事業:209,156円 その他事業関連経費:1,140,240円 小計:7,279,345円 補助対象額:13,779,345円 対馬学 研究奨励補助金及び対馬学フォーラム開催事業はコロナ感染症予防対策により中止	18,930,000 (13,779,345)	9,465,000 (6,889,672)	本事業による移住定住者数	1人	1人	B	B	せんだんごの速醸は、手間暇かけて作ることに魅力があると思うので、逆効果ではないか。 作り手の高齢化等により、島の郷土料理を次世代に守る観点も事業の目的のひとつと思う。手作りのものと速醸のものについては、一定の区分は必要と考える。	
本事業による島外参加者数	280人	256人											
市民研究員及び地域イノベーター登録数	8人	19人											
自動運転バス実証路線数	1路線	0路線											
7	金田城等の多様な歴史資産を活用した新たな観光ツールの創出及び観光地づくりプロジェクト 【市単独申請】 【新規・2次申請分】	観光商工課	対馬は自然が豊かな島で、日本本土と大陸の間に位置することから古代から近代まで海上交通で結ぶ交易・交流の拠点として国交の先端を担い、山城、神社、砲台跡などの様々な史跡が全島に多数点在している。また、島の中央部には九州百名山にも選定された「白嶽」や無数の入り江や島を持つ「浅茅湾」があり、多くの観光客が自然、史跡、景観を自営で訪れている。H30年には約53万人の観光客が訪れているが、うち、約70%以上が韓国人観光客で、国内観光客の誘客へ向けた取り組みが課題となっている。また、近年の日韓関係悪化によりインバウンド需要が激減し、更なる国内客の誘客強化が喫緊の課題となっている。そのため話題性と他の観光地でない観光資源の活用が必要であり、その動機としてNHK「あなたも絶対行きたくない！日本「最強の城」スペシャル」で最強の城に選ばれた「金田城」を活用した観光地づくりを行う。従来のトレッキング、景観のすばらしさに加え、体験を組み込んだ「行きたくない」オンリーワンの観光、金田城を核とし、他資源と連携した魅力ある観光、個人客でも手軽に観光できる訪れやすい観光に取組み、交流人口の拡大と地域振興を目指す。	【金田城を核とした新たな観光地づくり】 各種現地調査及び実行委員会開催事業:212,120円 Googleストリートビュー登録事業(撮影及び掲載委託):823,953円 利用者特典WEB専用フォーム作成事業:187,493円 【金田城観光利用促進環境整備】 観光客の利便性を図るためトイレ及び駐車場整備に向けた検討・協議 補助対象額:1,223,566円	2,200,000 (1,223,566)	1,100,000 (611,783)	金田城トレッキング利用者	840人	1,054人	B	B		
島外航路・空路利用者数	143,800人	88,382人											
周遊タクシー利用者	2年目より												
8	ながさきとの関わり創出プロジェクト 【共同申請】 【新規・2次申請分】	教育委員会生涯学習課	(1)長崎のファンづくりと、長崎県とつながるきっかけづくり、交流機会の創出 長崎ファンの獲得のための情報発信 ・県が、市町が発信したい情報等について助言を行うほか、市町向けに広報業務に係る研修会等を実施することで市町の情報発信力の向上を図るとともに、県が市町から地域の情報を吸い上げる仕組みを構築し、県と市町が協力して効果的なパブリシティ活動を実施することで、より多くの長崎ファンを獲得する。 長崎とつながる交流機会の創出と仕組みづくり ・本県と関わりを持ちたい都市部住民等に対し、農山漁村体験やイベント等を実施する。	対馬ギターフェスティバル:3,507,617円 国内外から招聘するギタリスト等を関係人口とし、地域住民等と連携して、対馬ならではの国際ギターフェスティバルの実施、ギターや万葉集に出てくる「古代琴」にちなんだワークショップ等を実施することにより、地域の文化芸術人材の育成を図るとともに、島外在住の方々に対馬市とのつながりを持つきっかけを作る。	4,500,000 (3,507,617)	2,250,000 (1,753,808)	新たに関わりを持った地域外人数 共同申請市町合算	1,250人	全体は9月に取りまとめ予定とのこと。 (県担当課)	C	C		
海外アーティスト等の地域イベントへ参加した人数 (上記の内数で対馬市KPI)	1,250人 [県全体]	27人											
マッチングによりワケーションを実施する企業数 共同申請市町合算	2企業	全体は9月に取りまとめ予定とのこと。 (県担当課)											
継続的に長崎県内の地域活動への情報提供を受けとる人数 共同申請市町合算	100人	全体は9月に取りまとめ予定とのこと。 (県担当課)											